

平成 29 年度

事業所名 : ほっともとみや 2階

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	ほっともとみや 2階		
所在地	〒020-0866 岩手県本宮6丁目14-12		
自己評価作成日	平成29年12月4日	評価結果市町村受理日	平成30年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&amp;Ji.gvosyoCd=0390100022-00&amp;Pr.fCd=03&amp;Ver.si.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&amp;Ji.gvosyoCd=0390100022-00&amp;Pr.fCd=03&amp;Ver.si.onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 12 月 14 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人が自由に生活することができている。  
 毎食、手作りの食事を、利用者も職員も一緒に楽しい雰囲気です。  
 花見、夏祭り、芋の子会、敬老会、忘年会などの行事に家族や地域の方も呼び出して、利用者が楽しみながら、家族、地域と共に生活できるように支援している。  
 日々の家事を利用者と職員が一緒に行ない、生活の中に役割がある。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者福祉生活協同組合が運営する二階建てユニットで明るくゆとりのある事業所である。周辺は新興住宅街で病院や商店等が多く、便利な環境にあり、「この本宮地区で、楽しい生活を目指す」ことを重点に、利用者の支援に当たっている。近隣住民を含めた災害避難体制を構築するなど、地域との交流を熱心に進めている。身体拘束をしない取り組みに特に力を入れ、会議などでも絶えず確認しながら、一人一人が自由に自分らしく生活できるよう働きかけている。利用者との信頼関係も徐々に築かれ、個性を大切にしながら、役割を持った生活ができるよう支援に努めている。医療連携と看取りに関する方針も確立しており、人生の最後まで安心して過ごせる事業所となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : ほっともとみや 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲示し、ミーティングや運営推進会議のレジメに記入し、皆で共有している。「共に喜び、共に悲しみ、共に助け合い」毎日を楽しく暮らしてもらえよう努めている。	理念の実践について、会議などで事例をあげながら話し合いをし、次につなげている。理念はホールに大きく掲げ、運営推進会議や会議資料、広報などに毎回載せ、地域の理解と共に意識の共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事への参加呼びかけ、防災訓練や花壇の花植え、お祭り等の地域行事への参加することにより、アニマルセラピーや読み聞かせなどのつながりが持て、活動の幅が広がっている。	避難訓練や花壇づくり等の地域行事に参加し、またホームの行事へ参加の声掛けをする等、地域との交流に努めている。毎月の絵本の読み聞かせや大道芸、コーラスなど交流が増え、中学生等の職場体験もある。	地域との双方向の付き合いに努力されているところであるが、地域開催の行事へより一層、利用者の参加を支援するなど、地域とのさらなる交流確保を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練で、車椅子の使用方法を地域の人に教えたり、行事に参加していただいた方へ、認知症ケアについて相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護保険制度改正に向け、こちらの今後の取り組みの一つとして、障害児童の受け入れを相談した所、色々な意見をもらった。今後の参考にしたいと考えている。	会議は、毎回2、3家族が交代で出席している。ゲストの警察署からSOSネットワークの情報、委員からボランティアの紹介などあり、事業所からも人材確保を話題にするなど、事業所を支える関係者が相互に意見等を交換しあう場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の、特に生活福祉課の方々とは、相談に乗っていただいたり、利用料金や利用者受け入れ等の相談に応じたりしている。	市の担当者からは介護保険・生活保護制度の変更や日頃の施設運営等の面で、随時、メールや電話などにより連絡、指導を受けている。日常の連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等に参加し、拘束についての理解を深め、身体拘束はしていない。夜間以外の施錠していない。ミーティングやカンファレンスで、身体拘束をしないケアの再確認を行っている。	外部への研修参加や、会議では「身体拘束ゼロへの手引き」などで再確認している。玄関にセンサーは付けていない。車椅子のベルトは外し、朝夕のみの使用にしている人もおり、ソファの長時間使用にも注意している。馴れ馴れしい言葉遣いについては、互いに注意し合うなど、拘束をしないケアに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアに困った際には、スタッフ間で話し合い対応している。家族とも相談し、対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を活用している方がいるので、理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い、了承を得たうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や、家族が来所した際に要望や意見をいただき、反映に努めている。玄関に運営推進会議の記録簿や施設の広報を開示している。	家族に毎月写真入りで行事等を掲載した通信を送っている。家族が訪問した際には話しやすい雰囲気作りをし、面会が少ない人にはアンケートを実施して意見、要望を伺っている。利用者からはレクレーションやドライブの希望が多く、家族からは料金値上げに関する事や、以前にはエアコン設置の要望があった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや各部会や理事会等で討議し、反映させている。	毎月の全体会議や各部会(福祉、総務、生きがい)で意見や提案があり、内容によっては、理事会で協議している。職員の意見により書類簡素化に取り組むきっかけとなったこともある。最近では日よけ対策について提案があり、環境改善に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日報などのスタッフが記録に割く労力の軽減、休憩時間の明確化、残業をなくすシステムの構築に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年度ほどではないが、施設外の研修に参加したり、施設内でオムツやパッド等の効率的な使用方法の研修を行ったりした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オムツ等を取り扱っている業者へ、オムツやパッドについての研修をお願いしたり、介護用品についてアドバイスを求め、各利用者に合った品を見繕ってもらい、質の向上に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に寄り添い、笑顔を心掛け、安心して想いを伝えられる関係づくりに努めている。また日々の生活にもその都度対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に日々の様子を伝える等、家族と会話するように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族へ聞き取りを行ない、当施設が希望に対して支援をしていけるか検討し、対応している。家族が高齢な場合は、訪問診療をすすめたり、福祉用具の提供、購入の支援を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の床掃除や、洗濯物たたみ等手伝ってもらっている。また意欲的に家事に参加される利用者もおり、スタッフと共に家事を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加のおさそい、急変時に家族へ対応のお願いをしている。 協力的ではなかった家族と利用者が十数年ぶりに面会するなど、少しずつ関係の改善が見られた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に県外から面会に訪れる方がいたり、外出・外泊、面会等なじみの方々との関係が途切れない支援を行っている。	友人や遠方からの知人も訪れ、友人から年賀状が送られたり、電話のやり取りもある。家族の協力で正月やお盆に外泊したり、葬儀の喪主として参列する人もおり、従来の関係が途切れないよう支援している。機能低下により懐かしい場や人への関心が希薄になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思疎通の難しい方が多いが、利用者同士話をしたり、気遣いをする場面がある。またスタッフが間に入り、コミュニケーションをとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した家族が野菜を届けてくれたり、外出先などで会った場合、気軽に声をかけてくれる家族がいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から希望や思いを聞き取り、カンファレンスで話し合っている。 困難な方には表情や反応で読み取り対応している。	日々の言動をチャートや申し送りノートに記録し把握に努めている。接する時は目を見て話し、傾聴に努め、いい顔や笑顔が見られる対応を心がけている。本人が満足して過ごせるよう、時には家族の協力も得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートや以前の施設からいただくケアサマリーなどを参考にした上で、日々の生活の行動や発言からその人の人物像の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日ごとにチャートを記録し、それをもとに申し送りやカンファレンスで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に見直しを行っている。また状況の変化によっては、その都度見直しを行い、実践している。	日々の様子や支援をチャートに記録したものや、申し送りノートにより評価し、家族の意向や医師の意見等を参考にして、3か月毎にプランを見直している。暮らしや身体の変化に応じて、現状に合ったプランに変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のチャートやケアプラン、申し送りノート等で情報を共有し対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療、訪問歯科、訪問理美容を取り入れている。 朝起きられない利用者は、食事時間をずらすなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本の読み聞かせ、コーラス、子供さんさ、舞踊の会、大道芸などの方々に来所していただき、皆で楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医があり、適切な医療を受けることができている。	利用者によって通院による受診と訪問診療による受診の別はあるが、本人家族の意向に沿ったかかりつけ医としている。内科、皮膚科、歯科の訪問診療があり、結果は医師から直接、又は面会時や電話などで家族に伝えている。受診時はバイタルや相談事項をとりまとめ、医師に提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週定期的に訪問していただき、急変時などには医療との連携を図り対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今年度2例。スタッフが家族や成年後見人と連絡を密にとりながら、医療や訪看とも連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2階は今年度は看取りはないが、看取りや終末期に向けた準備はできている。また医療の方から直接、家族に伝えてもらうことにより、今後の展開に向けた家族との話し合いの場も設けている。	入居時に、重度化、終末期について本人・家族に説明し理解を得ている。重度化した際には、身体的、精神的支援やその対応等について、プランに沿って随時説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時は訪問看護へ連絡し、指示を受けている。またミーティングやカンファレンス等で例を挙げ、対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や防災訓練を行い、また地域の防災訓練にも参加している。また数年置きではあるが、夜間想定訓練もしている。	消防署をはじめ、町内会長、民生委員、さらには近隣住民を含めた参加、協力体制ができている。年4回避難訓練を実施し消防署の協力で煙体験をし、夜間の訓練も実施している。夜間は外の非常階段は恐怖を伴い、改めて緊急時に備えた日常の対応の重要性を確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者への敬意を持ちながら、個々の個性に合わせた話し方、接し方を心掛けている。	利用者は年長者として敬意を払い、利用者の思いを否定せずに受け入れ、支援が困難な場合は、職員間で話し合い利用者の立場に立ったサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いが表出した際は、それを否定することなく、道筋を提示したうえで自分で選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人が自由に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でできる方は自由にいただいている。また訪問美容、理容の支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人は少ないが、皮むき等の調理、テーブル拭きや食器拭き、下膳などを手伝ってもらっている。	利用者の希望を取り入れ職員が献立を作成している。利用者に合わせ、とろみ食や刻み食も用意している。食事の準備や片づけに利用者も参加し、食卓の雰囲気も和やかで、芋の子会や外注食、ドライブ時の弁当等と併せ、利用者がそれぞれ食事を楽しんでいることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調に応じ、ミキサーやキザミ食などの提供をしている。 また介助によって水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には声掛け、介助が必要な方には、毎食後口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を促している。個々の排泄パターンに合わせて、声掛けや誘導をしている。	利用者の様子や排泄チェック表を使い、気持ち良く自立した排泄ができるよう支援している。日中は出来るだけトイレを使用し、リハビリパンツとパットを使用している人が多、布パンツの人も4人いる。リハビリパンツから布パンツへ移行した改善例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給、ヨーグルト等で対応している。また下剤を服用することで予防に取り組んでいる方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お湯の温度や入り方は、希望に添うようにしている。毎日入浴時間は設けている。	最低週2～3回、午後入浴としているが、毎日の入浴も可能である。菖蒲湯やゆず湯を楽しみ、入浴時は身体の異常発見の機会にもなっている。2年間入浴を拒み続けた人や入浴を渋る人もいたが、工夫を重ね今は入浴することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立している方は、個々の自由に休みを取っている。また介助が必要な方も、表情や体調から居室で休んでいただく等の介助を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの薬局があり、薬剤師に管理してもらっている。薬について解らない事、疑問な事は薬剤師に教えてもらい、症状の変化時にはかかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いや、読書、クロスワード、コーヒーの提供などで毎日楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外の空気を吸いたいと、ベランダや近所に出掛けたりしている。弁当を持つての外出もある。月に一度程度ドライブにも出掛けている。	重症化に伴い意欲の低下が見られ日常は日向ぼっこが多く、散歩には2人ほど出かけている。毎月のドライブでは弁当持参で雫石や紫波町などへ出かけ、桜やヒマワリ、紅葉狩り、産直等を楽しんでいる。家族と外出する人もおり、全員が外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ手紙を出したり、電話も自由にできる。 新聞へ投稿している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	七夕やみづき団子、干支やクリスマスなど、季節感のある飾りつけをしている。 テレビの音は皆が不快にならないような音量に調整している。	フローアと台所が一体となり、窓からは明るい陽射しが差し込み、室内の温度や湿度が快適に保たれている。刺し子等の作品が彩り豊かに掛けてあるなど、和やかな雰囲気を出している。玄関先には金魚の水槽が置かれ、家族の居心地の良さにも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席とは別に、ソファなどを配置し、少し離れた時などには自由に利用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	布団や家具等馴染の物を使っている。また家族と利用者が自分たちで必要なものを考え、持ち込み配置を決めたりしている。	居室にはベッドやクローゼット、収納ケース、エアコンが備えてあり、清潔に保たれている。利用者は使い慣れた家具、テレビ、時計など持ち込み、仏壇や家族との写真、作品などを飾り、居心地良い自分の部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブルやソファの配置等、歩行ができる方は歩き易いよう、車椅子の方は通り易いような工夫をしている。		